

みみより会存続の危機

理事長・編集長 宮田和実

「みみより会存続の危機」なんて書くとは、みみより会も、いよいよ潰れるか…と心配なさる方も多いと思いますが、そんなことは…、ありません。いえ、あり得ます。

確かに、現在、みみより会は、最盛期と比べれば、数分の一の会員数になったとはいえ、まだまだ二百人近くの会員数を誇り、収入が減ったことによる財政難は、心ある方々による多額の寄付金によって、余力を蓄え、みみより誌の製作費用も、編集会社を通さず、みみより会編集部で、組版を外部に頼らず、みみより会内部で行うことで、完全データ入稿を実現し、総額を従来の半分以下に圧縮し、毎年、ほんの少しの赤字で済ませるようになりました。

会員がこれ以上減少しなければ、当分の間は安泰のはずですが、それも、役員

の弛まぬ努力の賜物以外の何物でもありません。

手前味噌、自画自賛を承知で申し上げますが、

ですが、編集部は現在、編集長である小生を先頭に、事務局長が副編集長を兼務し、岩田副理事長、新江青年部長が、原稿集めから編集作業まで、編集部員として労苦を惜しまぬ作業を行い、そして、講演などのレジュメは、何人かの有志に協力してもらい、多額のお金はかからなくなりましたが、多大なる時間・労苦を要しています。

勿論、みみより会は、みみより誌だけで成り立っている訳ではなく、現在は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、自粛や縮小、オンライン開催を余儀なくされているとはいえ、例会の企画・開催・運営など様々な作業をしなくてはなりませんし、こうした事業を行うため、理事会の開催なども、なくてはならぬ要素となります。それらのすべての作業を、

現在、八人の理事と会計担当で賄っている訳です。

それだけいけば…と、お思いになる方もいるかも知れませんが、若い方々は、平日の昼間は、仕事を持っている方も多く、仕事はリタイアしていても、多団体の役員と掛け持ちしている方が殆どで、みみより会の会務に、多くの時間を割くことができないのが現実です。

来年は役員の改選年です。どうか、役員として、または、事業部員、編集部員、事務局員、会計部員などとして、皆様の力を貸して頂けないでしょうか？ 心からお願い申し上げます。

今回のコロナ禍に際して、気が付いたというか、思いを新たにしたことですが、誰しも、一番大切なのは自分。この自分というのは、自分の財産や時間、プライドなどというのではなく、『命』です。新型コロナウイルスの蔓延は、自分の命を危険にさらすというリスクを、常に伴う状況を生みました。

どの位危険なのか？ これは、人それ

どれ、捉え方、考え方が違うので、何とも言えません。比較的平気な方もいれば、怖くて外出できないという方もいらっしゃると思います。

しかし、この機会に、自分の大切なものに向き合うという体験をなさった方は多いのではないのでしょうか。

感染するも運命、しないも運命と、やりたいことをやるという考え方に辿り着いた方もいらっしゃるでしょう。

命あつての物種と、慎重さを確認なさった方もいると思います。

しかし、どんな内容にしても、その経験は、人生に必要な経験だったと、私は思っています。そして、多少のリスクがあつても、やらなければならないことがあることも確かです。

今の時代、自分の意思を曲げてまで、誰かに、無理やり何かをやらされると言うことは少なくなってきました。お国のために命を投げ出せなんて言う人もいないでしょう。自分で選べるからこそ、何でも自由にできる。自由にできるとい

ことは、自分の責任であるがゆえに、誰のせいにもできない。後悔するのも自分ということなのです。

後悔だらけの人生を選ぶか、後悔しない、最終的に、後悔のない人生を選ぶか、それも自分なのです。

後悔の全くない人生を送ってきた人はおそらくいないでしょう。しかし、人は学習することができません。後悔は学習することで、確実に少なくなると、私は思います。

堅苦しい話になって申し訳ありません。後悔しないために、これを書いていきます。後悔させないように、御協力を心からお願いします。

安全で有効なワクチンが開発され、公的機関が認めた施設で、接種が実施されるようになり、万が一感染しても、重症化しないことが確認された特效薬ができれば、文字通り、コロナ禍が収束すれば、事態は好転すると思えますが、まだまだ時間がかかるようです。来年の東京オリンピックの開催を期待している方々は、来年

の春頃までには…と思っただけでいらつしやるのでしようが、果たして、どうなるのか、予断を許さない状況と言えるのではないのでしょうか？

コロナ禍は、私達の生活に、様々な変化をもたらしました。外出自粛と外出時のマスク着用が、その最も大きいものだと思いますが、読書時間が大幅に増えたという方もいます。外食が減り、料理を作るようになったという方もいます。

九月号の空きスペース埋めのために掲載した小生のオリジナル料理に、少しだけ反響がありました。

皆様も、得意なオリジナル料理がありましたら、誌面で紹介してみませんか？

また、旅行記を寄稿してください。多く、大歓迎なのですが、帰ってきた直後でなくても構わないのですよ。例えば、今まで行った中で、特に良かった場所の紹介とか、思い出の場所とか、どしどしお寄せください。お待ちしております。

みやた × ×
かづみ(栃木県那須塩原市)